

栃の木からの手紙

2018年 9月号



低温続きで収穫が遅れると予想されていた秋播き小麦。7月の「野挿し」の行事以降、天候が一変。記録的な暑さが8月上旬まで続き小麦は急速に乾燥が進み8月2日、小麦の収穫作業が始まりました。自然農法畑との緩衝地帯のひまわりも満開状態。今年は、「自由に畑に来てひまわりを持って行ってご利用下さい。」と野挿しの時に伝えてありましたので、例年に無くひまわりを利用して頂けたようですし、自然農法の畑に触れる機会も増えた事と思います。

7日に、満開のひまわりに心の中で謝りながら粉碎して処理しました。



「生きて生かし、死して生かす。」そんな想いをひまわりから頂いた申訳ない作業。畜産農家ではそんな想いを強く感じている事でしょう。

8日： 白露

10日： 新月 旧 8月 1日

23日： 秋分

25日： 満月 旧 8月 16日

9月 長月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

雨量が多く低温傾向の今年は、湿害の為か畑のあちこちで作物が黄色く成っている。一般の早出し芋の収穫が始まった当農場の傾向として小玉や二次成長の芋が多くそうか病も多く正品が少なくなっています。

自然農法の畑では、芋の病気の「疫病」の進行が遅れています。例年では7月20日頃に初期状況を確認しますが今年は8月2日でした。その後、8月7日のひまわりの処理の際の土埃がとうや芋の方へ流れ、疫病の進行が早まったようです。



(8月6日のとうや)



(8月17日とうや)



(8月21日とうや)

低温の時期は病気の進行も遅くなるようです。でも多雨による「そうか病」が心配です。

疫病の発生順位は「とうや」「シャドー・クィーン」「きたあかり」「ノーザン・ルビー」「さやあかね」。